

## 今こそビジネスに生きるケネディの信念

あなたはこのe-bookをあなたの商品の販促品として有料無料を  
問わず自由にお使いいただける権利を有しました。

Copyright © K.Ichikawa 2007 All Rights Reserved.

<http://goldtensi.com>



[黄金天使](http://goldtensi.com)

<http://goldtensi.com>

<http://goldtensi.com/gold.htm>

有益情報多数

e-mail

[mahoroba@aqua.ocn.ne.jp](mailto:mahoroba@aqua.ocn.ne.jp)

Copyright © K.Ichikawa 2007 All Rights Reserved.

## ケネディの信念

ケネディの以下の言葉はまさに珠玉の名言といえるものです。

それはあらゆるビジネスに生きるだけでなく、人生はいかにして勝利へ導くか？  
その知恵にあふれています。

困難なときこそ、立ち向かう勇気が必要です。

今、なぜケネディなのか？

このレポートでは今ではあまり語られることのない不世出の政治家：  
ジョン・フィッツジェラルド・ケネディの実際の言葉から知恵と勇気に満ちた精神を学ん  
でみましょう。

今、ビジネスに求められるケネディの精神とは？

ケネディの大統領就任演説から抜粋しました

なかなか素晴らしい内容です。

Now the trumpet summons us again not as a call to bear arms,  
though arms we need not as a call to battle, though embattled  
we are, but a call to bear the burden of a long twilight struggle,  
year in and year out, "rejoicing in hope, patient in tribulation",  
a struggle against the common enemies of man:  
tyranny, poverty, disease and war itself.

Summon 召集する、呼び出す  
Embattle 戦陣を張る戦闘態勢につく  
Rejoice 喜ぶ  
Tribulation 苦難、艱難、辛苦

わかりやすく以下に段落ごとに書きます。

Now the trumpet summons us again  
今またラッパが私たちがを召集している

not as a call to bear arms,  
それは武器を取れという呼びかけではない

though arms we need not as a call to battle,  
私たちは武器が必要だがしかしそれは戦えという合図などではない

though embattled we are, but a call to bear the burden  
私たちは戦闘に備えてはいるが しかしそれは重荷に耐えよという合図なのだ。

of a long twilight struggle,  
長いわずかな明かりのような戦いの、

year in and year out,  
迎える年、過ぎ行く年(いつも)

"rejoicing in hope, patient in tribulation",  
希望を抱いて喜び、苦難に耐えるのだ。

a struggle against the common enemies of man:  
人類に共通する敵に対して戦うのだ。

tyranny, poverty, disease and war itself.  
圧政、貧困、病気、そして戦争そのものと。

ケネディはどれほど迷うような事柄であっても、いざ人の前にたったら、常に自信を持ち、いかなる相手でもたじろぐ姿勢を見せなかったといわれています。

自信が持てないときでも、彼は人までは絶対の自信を見せて相対していたのです。

もしケネディが自分に迷いを持ち、あいまいな一面を見せていたら、ケネディの成功はありえないことです。

それどころか、世界は破局の危機を迎えていたことはほぼ間違いないでしょう。

## 世界破滅の危機を迎えたキューバ危機 まさに米ソ核戦争の一步手前だった

かつてソ連によるキューバ危機を映画にした「13デイズ」という映画がありましたが、これは、ソ連がキューバに核兵器を密かに持ち込んでアメリカをいつでも攻撃できる態勢を作り上げようとした史実を描いたものです。

アメリカの力がソ連を下回っていたら間違いなくソ連はアメリカや他の民主国家を侵略したろうといわれています。

このときアメリカとソ連は水面下で空前の戦いを繰り広げていたともいわれるのがキューバ危機です。

映画の中では語られていませんでしたが、このとき事実上戦争を仕掛けてきたソ連に

対してケネディは戦争回避のために可能なあらゆる手段を講じていたといわれます。

ケネディは最終的には全面核戦争の勃発と、全地球上の人口が半分になることを50%覚悟したといわれています。

幸いなことに嘘をつき続けるソ連(これは国連に記録が残る事実です)に対してアメリカは国連の場で証拠を突きつけて、ソ連を封じ込めることにぎりぎりのところで成功しています。

もしケネディの信念が揺らいでいたら、もしアメリカという国がソ連よりも弱体国だったら、もしケネディが強固な自信を持ち得ないまま圧力に屈していたら.....。

今頃世界史はまるで違うものになっていた可能性が高いのです。

どんなときにも希望を持ち、揺らくことのない信念を持ち続けることは大変難しいことかもしれませんが、それはあらゆる問題を打開する原動力になることは確かなようです。

このケネディの精神は、ビジネスの基本ともなりえるものです。

自分が今やろうとしていること、あるいは自分の仕事に自身が持てないままで、どうして良い仕事ができるでしょうか？

できようはずがありません。

良い仕事とは良い精神の上に成り立ちます。  
良い精神とは自分や自分の仕事に対する自信からしか生まれてきません。

あいまいな気持ちや、うじうじしている心から生じてくるものはやはりそれだけのもの  
でしかありません。

どんなときでもいつでも自信を持って人生を送る、人と話す、毎日を過ごすことは、気が付かない間に大きな開きとなってその人の人生を形作ることになるでしょう。

## 運命と人生を決するとき

一人の人間には、その運命と人生を決するようなときが、生涯一度は必ずあるもので、それを乗り切った瞬間、彼の未来は全面的に変わる  
--遠藤周作--

苦難を乗り越えたとき、道が大きく開いた、という話をよく聞きます。

というよりも、もう死ぬしかないとほとんどあきらめて、もう一度そこから立ち上がった人だけが成功者への道を歩み始めた、という話はかなりあります。

何事もあきらめずに暗黒の中にも光や希望を見出して必死に歩み続けた人が大いなる光の世界へと行くことができるといいます。

誰にでも人生の困難や苦悩はあるものです。  
そんなときに決して自分だけがなぜ・・・とは思わないことだと、それらの人々はいいます。

困難や苦悩は誰だって突き当たる。  
だからこそピンチはチャンスなり、という言葉が存在しているのだと、ある人はいいます。

あきらめは逃げることと同じで、困難には立ち向かうことでしか道は開けないのです。

---

遠藤周作さんの言葉は、そんなことを教えてくれます。

外国にこんな名言があります。

The art of pleasing consists in being please.

自分が先に喜びなさい。そうすれば相手も喜ぶ。  
人を喜ばす方法は 先に自分が喜ぶことにある。

この言葉はなんと多くのことを教えてくれるのでしょうか！！

喜びとは多くの人が共有できるはずのもの。  
相手の喜びも自分の喜びとすれば、おのずと自分の喜びも手に入る、  
というところでしょうか。

これはもっともパワーあふれる開運法のひとつといえます。

日本に古くからのことわざにありますね。

「笑う門には福来る」

暗いじめとした人のところには決していいものが寄り付きません。

暗くじめとした家の中は良い運気が流れ込んできません。

人間も、

「暗いやつは嫌われる」

とよくいわれます。

明るくしているだけで、人気者になれるということもあります。

最近、2枚目俳優よりお笑い芸人の方がもてますよね。

---

あれです。

いつも生真面目で暗い感じだと、一緒にいて疲れますが、適当に笑ってられる相手だと気持ちも楽ですね。

運を味方に付けたければまず笑え！

これは私が昔何かの本で読んだことばです。

苦しいとき笑うなんてできるか、という人はその時点で運気を逃しているのです。

人間で一番自分の可能性をなくしてしまうのは、

「でも……」

という言葉だそうです。

でも、のあとには必ず否定的な言葉が続きますよね。

「でも、そんなこと難しいよ」

「でも、できるかも知れないけれど困難だ」

という感じです。

ところが何事にも成功する人は、ここからすでに違うのです。

でも、などという言葉はその人にはありません。

「難しいけれどもやればできる」

「かなり困難なことだが可能だ」

という言葉が彼らにはいうのです。

この二つの言葉は、その意味するところが180度違ってきます。

私も人と話しをしていて、この「でも」が多い人間とは、それ以上話をする気にはなれません。

所詮駄目な人間なのです。

そう思うことにしています。

そしてそういう人間に限って、人並みの努力さえしないものなのです。

---



だから、いつまでたっても、なにをやっても駄目なのです。

困難から不屈の闘志で立ち上がってきた人たちは、いずれもケネディのような信念の持ち主だったのです。

---

Copyright © K.Ichikawa 2007 All Rights Reserved.

<http://goldtensi.com>

---